

令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	新たな竹の有効活用事業
事業主体 (連絡先)	高森町 0265-35-9405
事業区分	(5)環境保全、景観形成に関する事業
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	1,624,978円 (うち支援金: 1,102,000円)

事業内容

ア) 新たな処理法の整備と活用

①新機能付破砕機の導入: カルイKDC1303 1台他付属品購入

②破砕機の貸出し: 破砕機の導入、取扱い説明と作業体験会の実施が遅れたため、貸出要綱のみ整備

イ) 竹林整備の必要性とゼロカーボン・SDG'sに向けた行動へ向けた関心の喚起

①竹を活用した啓発食器の製造・利用: 竹粉を原料の一部に使用した食器を試作。3/21イベント時に試食、使用感等アンケート実施



【説明会において作業実演】

【目標・ねらい】

事業効果

①伐採された竹林の筆数

・町の地域で行う竹林整備補助を利用して伐採された竹林: 20筆

②年間竹林伐採面積(対R2比)

・町の地域で行う竹林整備補助利用伐採面積: 10528㎡/7688㎡= 36.9%アップ

③アンケートを実施

・3/21破砕機説明会と破砕実演の折りに竹粉を材料の一部に使用した食器で試食を行いアンケートを実施した。

結果、質感、使用感、耐久性についてほぼ全員の方が良いと評価し資源再生食器として利用したいと回答。しかし価格の面での課題が明らかになった。(回答者18名)

- ①景観や防災上の課題である放置竹林の整備拡大
- ②放置竹林を課題と認識する地域及び団体の活動による地域コミュニティの活性化
- ③活用されなくなった竹の資源としての再認識と新たな活用の創出

※自己評価【 B 】

【理由】

・破砕機の導入、竹粉を原料に使った食器の試作および評価を実施することができたが、地域等への貸出を行うことができなかったため【B】としたい。

今後の取り組み

ア) 新たな処理法の整備と活用について

・新機能付破砕機の導入を図ることができたことにより、今後の竹林整備の拡大が期待できる。また、竹粉の製造が可能になったことで、竹林整備とそこから発生する資源の再利用、活用について検討できる幅を広げることができた。耕地への肥料として、雑草を抑制するカバー材としてなどPRを行うことで資源活用に繋げたい。

・事業内容としてあげていた破砕機の貸出については諸事情により破砕機の導入が遅れたために実施出来なかった。しかし、貸出要綱の整備を行うことでR5年度より地域への貸出ができるようになり、地域を挙げての竹林整備の実施に活用したい。

イ) 竹林整備の必要性とゼロカーボン・SDG'sに向けた行動へ向けた関心の喚起

・竹粉を原料に使用した食器について、当初予定したイベントでの試食は出来なかったが、破砕機説明会の折りに行った試食ではほぼ全員の方から良い評価を得た。課題となった価格ギャップ及び原料となる竹粉の安定供給について更に精査を行うことで資源活用についての関心を喚起し、竹林整備へとつなげたい。